

年間第 21 主日 8 月 22 日 分かち合い

コロナが終息どころか、今まで経験したことのないような勢いで拡大し、広島教区でも、いよいよミサを非公開にするようにとの通達を先日いただきました。こうした社会の状況を見、司教様の指示に従いながら、わたしたち皆も、自分自身と周囲の方々の健康維持のため、今まで以上に、気を配り、感染症の終息を祈りながら日々を過ごしてまいりましょう。

今日のミサの朗読のテーマは、言ってみれば、「選び」ということです。神様の選びではなく、わたしたち一人一人に課せられた「選ぶこと」についての話です。第一朗読では、旧約聖書から『ヨシュア記』が読まれました。モーセの後を継いで、イエスラエルの民の指導者となったヨシュアが、約束の地に入ってから、土地に住んでいた人々との戦いを終え、イスラエルの民に、どのような神を選ぶつもりかと問います。かつて先祖たちが拝んでいた神々か、この土地に住むアモリ人が礼拝する神々か、それとも、自分たちをエジプトから導き出し、約束の地まで導いて来られた唯一の神か選びなさい。自分たちは、「主」に仕えます、と。

『ヨハネ福音書』は、「いのちのパン」についての話の最後に、弟子たちの中にも、イエスの話についてゆけず離れて行ったものが出たことを受けて、イエスが12人に「あなたがたも離れて行きたいか」と問われたことを記しています。イエスに従うか否かの選び、選択の問題です。ペトロは、12人を代表して言います、「主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょう。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています」と。聖体拝領の前に唱える言葉のもとになる一節です。わたしたちは、洗礼によって、何を選んだか、どなたに従うか、しっかり決断し、その決意をミサにあずかるごとに固めることができる恵みを感謝いたしましょう。

先日、久しぶりに本屋に行ったところ、店頭の新刊本の棚に、フランシスコ教皇の『コロナの世界を生きる』という本が置いてあるのに目がとまり、一冊買って帰りました。昨年コロナ禍で書かれた文章のようですが、PHP研究所から発行されたもので、教会関係の新聞や雑誌には全く紹介がありませんでした。ページをめくってみると、全体は大きく3部に分かれ、それぞれ、「見るとき」、「選ぶとき」、「行動するとき」、と見出しがついていました。コロナが世界を覆い、そこで、人々が今まで経験したことのないような状況を生きていることをしっかり見なさい、ということ。そこで、見たことを踏まえて、自分はしたらよいか、静かに内省することを勧め、次のように言われます。「現実を見つめ、その光景に衝撃を受ける第一段階と、その現実を癒し、修復するために具体的な行動をとる第三段階との間には、欠くべからざるもう一つの段階があります。識別し、選択する段階です。…この第二段階のためには、現実を受け入れるだけでなく、指針となる揺るぎない基準が必要です。それは、人類が神に愛されてお

り、奉仕と連帯に準じることを求められていると自覚することです。また、静かに内省する能力や、せわしない雑務からの避難場所も必要です。そして何より、聖霊からの働きかけを聞き取り、夢を育むための対話を行うための祈りが必要です」(p. 70)と。

わたしたちは洗礼によって、根本的な生きる方向性は固まっています。しかし、日常のこととなると、様々な選択・決定をしていかなければなりません。だれかが決めてくれるわけではありません。わたしたちは、自然災害等、何か衝撃的な体験をすると、とにかく、自分のため、人のために何かしなくてはと思いがちです。何らかの行動は必要です。しかし、行動に移る前に、何ができるか、何をしたらよいか、どのようにすればよいか、よく検討し、様々な可能性の中から、ふさわしいものを選ばなければなりません。基準ははっきりしています。神の意志、望みです。しかし、それを知るために必要なことは、自分の好み、自分の願望ではありません。自分よりも、人のために何が必要かも考えなければなりません。恐れのために必要な決断ができない、ということも避けねばなりません。単に合理的であるかどうかでもありません。人々の反応、人々がどう思うかでもありません。神がわたしに何をさせようとしておられるかを、謙虚に学ぶことです。

「霊操」は、まさに、そのための手引きです。

また、しばらく教会に集うことのできない日々がやってきます。兄弟姉妹にあうことが出来ないのはつらく寂しいことです。病人を訪問したいと願いながら、それが出来なかった方も大勢おられます。そこで何をしたらよいか、今こそ、考えるべき時です。静かに、祈るときです。神の導き、光を願う時です。どうか、これからの日々を主が導いてくださり、あらたな希望で満たしてくださるよう祈りましょう。そして、どこにいても、わたしたちを愛してくださる神が、復活された主において、また、主が送られる聖霊において、共にいてくださることを一層深く体験できますよう、祈りましょう。

そして、一日も早くコロナが終息しますように、特に、小さな子どもたちの間に蔓延しないようにお祈りいたしましょう。(S.T.)